いわて復興だより

がんばろう！岩手　つながろう！岩手

三陸復興

第 79 号

平成 27 年 1 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

沿岸地域でも成人式が行われ、新成人になった若者からも復興への決意を新たにする姿が見受けられました。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

いわて三陸復興フォーラム in 神戸が開催されました　神戸市

～新たなふるさとづくりに向けて～

１月８日（木）、「いわて三陸復興フォーラム in 神戸」（主催：岩手県）が、神戸国際会議場メインホールで開催され、約 350 名の方々が参加しました。

今回のイベントのテーマは「新たなふるさとづくりに向けて」。冒頭の岩手県知事挨拶では、達増拓也知事が、兵庫県、神戸市をはじめとする国内外からの復興支援に対する謝意とともに、支援に応え、岩手・三陸の復興を更に進めていくことを伝えました。

続いて、達増知事、兵庫県・井戸敏三知事、神戸学院大学・清原桂子教授の３名による「阪神・淡路大震災、東日本大震災津波の教訓を後世へ」をテーマにした鼎談が行われ、それぞれの震災に対する取組から、今後の復興への取組や、２つの震災の教訓をどう後世に伝えていくのか話し合われました。

その後、「ありがとう神戸！共に歩む協働の未来へ！」をテーマとし、岩手県内で観光や漁業に営む方々や、阪神・淡路大震災をきっかけに、東日本大震災の支援に携わっている方々によるパネルディスカッションが行われ、それぞれの経験や活動をもとに、岩手と神戸が互いにどのように復興に対して取り組むことができるのかを語り合いました。

これらの話し合いを参加者の方々は熱心に聞き入っていました。

また、会場ロビーには、絵本作家の永田萌さんをはじめ、兵庫県内の方々の東北被災地へのメッセージが込められた「思いをつなぐ　命をつなぐ木」の展示、岩手の特産品を販売した復興バザール等も行われ、岩手県と兵庫県のつながりを深めることができたイベントとなりました。

パネルディスカッションの様子

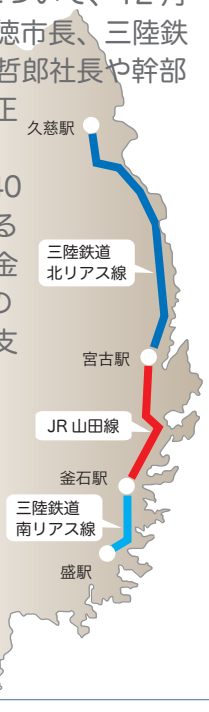
「命をつなぐ木」と達増知事、井戸知事

ＪＲ山田線不通区間 三陸鉄道移管受け入れへ　宮古市～釜石市

東日本大震災津波で被災し、現在も不通となっているＪＲ山田線宮古～釜石間（55.4 キロ）について、12 月 26 日（金）、達増知事と宮古市の山本正徳市長、三陸鉄道の望月正彦社長らは、ＪＲ東日本の冨田哲郎社長や幹部らと会談し、三陸鉄道への運行の移管を正式に受け入れることを伝えました。

譲渡にあたり、ＪＲ東日本は、復旧費 140 億円を負担する他、移管に伴い想定される赤字や運賃差額の補てん等を含めた協力金として 30 億円を負担することや、車両の無償譲渡、レール設備の強化等について支援することを提案していました。

これにより沿岸部の鉄道網は、三陸鉄道の北リアス線と南リアス線を含め、久慈駅から大船渡市の盛駅まで１本の線路で結ばれることになり、利便性が向上するとともに、三陸沿岸の復興と観光の振興につながると期待されています。



冬季限定！三陸鉄道北リアス線「こたつ列車」運行中　久慈市～宮古市

久慈と宮古を結ぶ北リアス線で、冬季限定の「こたつ列車」が昨年 12 月より 3 月 29 日（日）まで運行されています。

「こたつ列車」は、東日本大震災津波の影響で 2011 年は実施されませんでしたが、2012 年 12 月より久慈～田野畑間で復活し、今シーズンは、昨年 4 月に全線運行再開後、初めて久慈～宮古間の運行が再開しました。

車内では、「北限の海女」に扮したアテンダントによるガイドや、沿岸北部に伝わる伝統行事の「なもみ」が登場し、三陸の美しいリアス式海岸を眺めながら、約 1 時間 40 分の旅を満喫できます。

＜お問合せ＞
三陸鉄道株式会社旅客サービス部
TEL：0193-62-8900

「こたつ列車」の車両

「こたつ列車」車内の様子

沿岸地域をカレンダーで紹介　観光 PR を復興支援に

2015 年を迎え、沿岸各地の観光 PR と支援を目的としたカレンダーが製作されました。

宮古観光文化交流会は、ポスターサイズの「宮古おもてなしカレンダー」2000 部を製作。これは宮古の魅力を PR し、おもてなしの心を伝えようと毎年製作されているもので、今年は宮古市の景勝地・浄土ケ浜の写真が選ばれ、JR 宮古駅前の総合観光案内所などで無料配布されました。

一方、JR 東日本盛岡支社は、S L 銀河のカレンダーを発売。SL 銀河は、J R東日本が東日本大震災の復興支援として 42 年ぶりに釜石線で復活させたもので、カレンダーでは SL の走る沿線の四季折々の風景の写真などで構成されています。カレンダーは盛岡駅や釜石線の花巻、遠野、釜石の各駅、東北新幹線の新花巻駅で販売しています。

また、環境省は日本の国立公園の魅力を国内外に PR するためのカレンダーを製作。日本の美しい風景を紹介する中で、3 月には大船渡市の碁石海岸を代表する穴通磯を掲載。環境省のサイトからダウンロードができます。

ダウンロードサイト＞http://www.env.go.jp/park/doc/calendar/

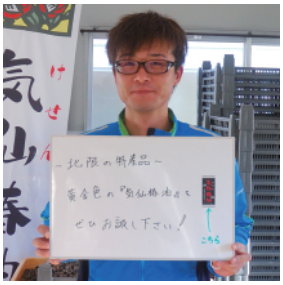
宮古おもてなしカレンダー（左）SL 銀河カレンダー（右）

国立公園カレンダー

未来のさんりくびと

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。
第 33 回目は、清水 卓さんを紹介します。

社会福祉法人 大洋会
青松館せせらぎ 椿油担当
清水 卓（しみず すぐる）さん



清水さんからのひと言：
～北限の特産品～
黄金色の「気仙椿油」を是非お試し下さい！

PROFILE
陸前高田市出身
2002 年 4 月、社会福祉法人大洋会の職員となる。東日本大震災津波で被災し、廃業を余儀なくされた石川製油所（石川秀一代表）の技術指導を受けながら、2012 年 4 月より青松館せせらぎで、気仙の特産品である椿油の事業に携わり、現在に至る。

被災に負けず、地域の技術を継承

陸前高田市の市の花である椿。陸前高田市の沿岸部は、椿がたくさん自生しています。

陸前高田市でおよそ 50 年以上の歴史がある石川製油所は、沿岸の椿から搾油し商品としていましたが、東日本大震災津波により自宅兼工場が被災。後継者も亡くされ、震災後の再建を断念していました。

そのような中で、社会福祉法人大洋会では搾油の技術を継承し、地域の復興につなげたいとの想いから、石川製油所の協力のもと、2012 年 4 月から椿の搾油に取り組んでいます。

「化粧品のイメージがある椿油ですが、製造される椿油は調味料、調理用の油として使われます。きれいな黄金色で絞った油が濃く、食用に適した油なので、是非試して頂きたい。」と清水さん。

技術の継承とともに、陸前高田の特産品としての期待が寄せられています。

感謝とともに地元の良さを将来に

清水さんは「高田松原付近のベルトコンベアーが毎日、夜中遅くまで動いているのが印象的です。かさ上げ工事が進み、一気に風景が変わるのではないかと思います。他県からも継続して復興支援を頂いているので、地元の人間として感謝していますし、震災前の地元らしさ、地元の良さを、椿油だけではなく、将来に繋げていけたらと思っています。」と復興への想いを語りました。

岩手県の被害状況　平成 26 年 12 月 31 日現在

▶人的被害　死者（直接死）：4,672 名　行方不明者：1,130 名
▶建物被害（住家のみ、全半壊）　25,716 棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等　いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます　平成 26 年 12 月 31 日現在

▶義援金受付状況　約 182 億 874 万円（90,624 件）
▶寄付金受付状況　約 196 億 2,505 万円（7,185 件）
▶いわての学び希望基金受付状況　約 70 億 7,976 万円（14,522 件）

※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください !!　http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより　第 79 号　平成 27 年 1 月 15 日号　企画・発行：岩手県復興局復興推進課　☎019-629-6925
いわて復興だよりバックナンバーは　いわて復興だより　検索
編集・印刷：シナプス